

## メーデー宣言

本日、私たちは 90 回目の記念すべき兵庫県メーデー神戸中央大会を開催した。

メーデーは、1886年に米国の労働者が1日8時間労働を求めてゼネストに立ち上がったことを起源としている。日本のメーデーは、1920年5月2日に第1回が開催された。その後、戦争などで禁止に追い込まれたが、第二次世界大戦後、働く者の団結と連帯によってメーデーは復活し、労働者の地位や労働条件の向上、民主主義の発展などをめざし継続され、本日90回目のメーデーを迎えることができた。改めてメーデーの原点や意義を振り返り、すべての仲間が団結・連帯することの重要性を認識しよう。そして、労働者の祭典であるメーデーが90回目を迎えた中、ナショナルセンターである連合が結成30年を迎えることの意義は大きい。

東日本大震災から8年、熊本県を中心とする九州地震から3年、昨年も各地で、地震や豪雨、台風などの大規模な災害が立て続けに発生した。依然として多くの人たちが不自由な生活を強いられている。一方、被災地では、支え合い、助け合いをすることで前を向いて歩を踏み出す姿がある。私たちは、引き続き災害を風化させることなく、防災・減災などの取り組みとあわせ、被災地の復興と地域の安全を守る運動を展開していく。

この4月から、改正労働基準法をはじめとする、働き方改革関連法が施行された。誰もが健やかに安心して働き続けられるよう、36協定の遵守など真に働く者のための働き方改革を確実に遂行していかなければならない。また、これまでの「底上げ・底支え」「格差是正」の流れを継続するとともに、社会的セーフティネットの拡大・強化により、子ども・子育て支援、医療、介護など、政策・制度の実現を通じて将来不安の解消にも取り組む。「働くことを軸とする安心社会」の実現をめざして、労働者福祉事業団体やNGO・NPOなどの諸団体と連携を強化していこう。

世界の労働者の労働条件と生活水準の改善を目的に創設された国際労働機関(ILO)が本年100周年を迎えた。「労働は商品ではない」とILOが1944年の総会で採択したフィラデルフィア宣言(国際労働機関の目的に関する宣言)は、完全雇用や社会福祉の向上など、第二次世界大戦後のILOの活動基本方針となったものである。新たな100年に向けて、政労使が仕事の世界の課題により適切に取り組むことができるよう、仕事の未来について世界的な対話の促進をはかろう。

世界では、貧富の格差拡大に加え、平和・人権を脅かす言動が見受けられるなど、不安が高まっている。世界の恒久平和に向けた運動の強化とともに、「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成のために、すべての仲間の連帯と国内外の関係諸団体との連携によって、すべての人が平和・人権を守り、笑顔あふれる未来に向けて、全力を挙げて取り組むことをここに宣言する。

2019年4月27日  
第90回兵庫県メーデー神戸中央大会